



ふぉーゆうだより



第22号

令和元（2019）年6月発行

日頃から大変お世話になっております。

昨年度の“ふぉーゆう”の事業の実施結果などについてお知らせします。

● 栃木県発達障害者地域支援マネージャーとの連携について

発達障害者支援については、より身近な地域で、より細かな支援が求められており、現に支援に従事している方が担う役割は大変大きなものとなります。そこで、栃木県では、発達障害者やその家族等を地域で支える支援者へのサポート体制の強化を目的として、平成30（2018）年度に「栃木県発達障害者地域支援マネージャー」（栃木県障害者相談支援協働コーディネーターを兼務）を3名配置しました。

平成30年度前半には、就労支援事業所を中心に地域巡回を重点的に行い（一部ふぉーゆう職員も同行）、地域支援の現状や課題、支援者側のニーズ等の把握に取り組みました。その結果、事業所によっては、丁寧な声かけや具体的指示、視覚情報を活用した環境調整等、利用者一人一人の発達障害特性に配慮した対応を行っている事業所がみられましたが、その一方で、障害特性の把握やアセスメント等に困難を感じている事業所も多くみられました。また、事業所側のニーズとして、身近な地域での基礎的・実践的な研修や事例検討、他事業所の取組事例の紹介、事業所同士の情報交換等を望む声がありました。

こうした地域巡回の結果については、発達障害者地域支援マネージャー・県障害福祉課・ふぉーゆうの三者により毎月開催された連絡会議を通して情報共有を行い、課題への対応等について検討を行いました。

平成30年度後半には、地域巡回から集約された事業所側のニーズを踏まえ、県内の各障害福祉圏域において発達障害者地域支援マネージャーが事務局となって就労支援事業所職員等を対象に研修会を開催し、発達障害者支援に積極的に取り組んでいる事業所から好事例を報告いただくとともに、他事業所職員同士の意見交換等を実施しました。受講者からは、他事業所の取組は大変参考になるものであり、今後の支援に活用していきたいとの感想を多数いただきました。

今後も、発達障害者地域支援マネージャーとふぉーゆうが連携を図りながら、地域の支援者からの相談に応じ、関係機関の連携を調整し、支援者への対応力向上のための研修の実施等をとおして、発達障害者支援に係る地域支援機能の強化を図ることとしておりますので、皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

平成30年度 普及啓発・研修事業

● 発達障害セミナー

9月に群馬大学 大学教育・学生支援機構 学生支援センター 障害学生支援室長で准教授の五味洋一氏をお招きし、「発達障害のある学生への理解と支援」をテーマに、発達障害セミナーを開催し、250名の方に参加いただきました。発達障害のある学生が大学生活でつまづく理由として、高校までは学力が重視されるが、大学では生活する力が必要とされることや、学力よりも生活を送るための基本的なライフスキルや、人と関わる上でのソフトスキルが大事であること、本人が障害特性や必要な特性についての理解を深めて主体的に考えることが大切とのお話がありました。例年は支援者の参加が多かったのですが、今回は県民だよりやテレビ・ラジオによる広報、県内の図書館へのチラシ配置等を行った結果、例年より一般の方々に多く参加いただきました。このようなセミナーを通して、一人でも多くの方に発達障害を理解していただけるよう願っております。

● 発達障害処遇支援研修会

就労支援事業所職員を対象に、「基礎研修」、「応用研修」、「実践報告」の3部構成で開催しました。基礎研修は遠方でも受講しやすいよう県内3か所にて開催しました。計67名に参加いただき、発達障害の基本的な理解と対応についてふぉーゆう職員が講話を行いました。応用研修には41名に参加いただき、作新学院大学大学院心理学研究科教授の高浜浩二氏を講師にお招きし、就労支援のポイントについて具体的な事例を交えながらお話しいただきました。実践報告には22名に参加いただき、就労支援事業所2ヶ所《エルムの園（大田原市）、CSW おとめ（小山市）》からそれぞれの事業所で実践的な取組を発表いただきました。また、応用研修と同様に高浜浩二氏を講師にお招きし、実践発表内容について講評をいただいた後、受講者同士でグループワークを行い、今後それぞれの事業所で活用できそうなことや課題等について意見を交換し、理解を深めていただきました。今後も地域の支援者の現状やニーズを踏まえて有益な内容となるよう研修を企画して参ります。

当事者支援事業

● 青年期グループ活動

青年期の方を対象に、5月から2月まで月1回（年10回）グループ活動を開催しました。延べ37名に参加いただき、室内レクリエーション、買い物ツアー、就労移行支援事業所見学、精神保健福祉センターでのパン作り体験などを行いました。中でも10月に行った屋外活動（ストラックアウトとフライングディスク）では、道具の組立てや片付け、投てき順を決めるなど、参加者同士が協力しあって楽しい活動ができました。今後もコミュニケーションを図ることができるような活動を企画して参ります。

● 就労準備支援事業（就労ガイダンス）

発達障害のある方が就労の意識を高めることを目的として、就労を目指す当事者とその家族を対象に2月27日にハローワーク宇都宮（専門援助部門）精神障害者雇用トータルサポーターの金田則子氏と鈴木靖子氏を講師にお招きし、「発達障害のある方の就労」をテーマに就労支援の実際についてお話しいただきました。10名の参加者からは、「障害者雇用について詳しく分かった」「積極的に障害者を雇用している企業があることを知った」「焦らず少しずつ前に進んで行けば良いのだと思えた」などの感想をいただきました。ハローワーク等でどのような相談ができるか、また、職業準備性の大切さを知ることで家庭でも今から就労に向けた準備ができること、家族からの協力を得ることも必要であることを学ぶ良い機会となったと考えております。

家族支援事業

● ペアレント・プログラム

10月に市町の保育士、保健師等、地域の支援者を対象にペアレント・プログラムの概要を知っていただくための事前研修を行い、20名の支援者に参加いただきました。11～1月にかけては研修型ペアレント・プログラムを実施し、保護者9名と支援者7名に参加いただきました。全6回のプログラムをとおして、保護者からは「自分も子どもも頑張っていることに気付いた」「困っていることの中にもいいところを見つけられるようになった」「ほめることに意識がいくようになった。ほめられると喜び、良い行動が増える」等の感想があり、子どもや自分自身を肯定的に受け止められるような変化が見られました。研修型ペアレント・プログラムでは、地域でプログラムを実施する際のノウハウを習得していただくため、実際のプログラムに地域の支援者も参加しましたが、支援者からは「進め方や保護者への声かけ等を学ぶことができた」「実際に参加・体験できたことでより理解が深まった。6回の参加により流れや保護者の変化がわかった」との感想があり、今後の実施については「不安はあるが実施してみたい」との意見が多数でした。ふぉーゆうでは、地域の支援者と連携し、身近な地域でプログラムを受けられるよう、引き続き普及に努めて参ります。

| 回 | 内 容 |
|---|-------------------|
| 1 | 現状把握表を書く！ |
| 2 | 行動で書く！ |
| 3 | 同じカテゴリーをみつける！ |
| 4 | ギリギリセーフ！をみつける！ |
| 5 | ギリギリセーフ！をきわめる！ |
| 6 | ペアプロでみつけたことを確認する！ |



● ピアカウンセリング研修会

親の会で活動されている会員の方を対象に、6月に2日間開催し、延べ38名の方に参加いただきました。1日目は傾聴ハピネスの代表渡邊純子氏をお招きし、傾聴に関する講話やワークを行いました。2日目は柳川小児科医院副院長で、こだわりっこの会代表でもある柳川悦子氏をお招きし、こだわりっこの会の活動について講話いただいた後、参加者によるグループでの話し合いを行いました。参加者からは「他団体の活動について情報交換できてよかった」などの感想をいただき、横のつながりをつくる良い機会となりました。

● 家族教室

主に思春期以降に「発達障害」と診断された方の家族を対象に、2月に2日間開催し、延べ33名の方に参加いただきました。

1日目は「発達障害の特性理解と家族の対応」をテーマに、作新学院大学講師の杉原聡子氏にお話しいただきました。発達障害の疑似体験をとおして本人の抱える困難さを体験した上で、家族の関わり方について具体的で実践しやすい対応のコツをお話しいただきました。「伝わらないもどかしさが理解できた。困って、生きづらさを抱えていることをわかってあげたい」「行動面に注目し、指示の出し方を具体的にし、励まし、ほめるという行動を家族がとることで、本人の目標をクリアする原動力になるのではないかと気づいた」等の感想をいただきました。

(2日目は就労準備支援事業(就労ガイダンス)との合同開催。)

相談状況（平成 30 年度実績）

▽電話相談件数（延べ 1,056 件）と来所相談件数（延べ 281 件）を合わせると、延べ総数 1,337 件になります。

▽対象者の性別については、男性（延べ 863 件）が女性（延べ 404 件）を大きく上回っています。

▽対象者の年齢区分については、19 歳～39 歳が約半数を占め、次いで 16 歳～18 歳、小学生、40 歳以上の順になっています（図 1）。

▽相談内容（複数選択式）については、「生活・家庭」、「医療・支援機関」、「診断」、「今後の就労」の順になっています（図 2）。

▽「生活・家庭」に関する相談例としては、「本人に困り感はないようだが、どのように接したらよいか分からない」、「今の生活状況のままでは、親亡き後が心配」といった家族からの相談や、「発達障害について家族の理解が得られない」といった本人からの相談などがありました。

▽「医療・支援機関」や「診断」に関する相談例としては、「発達障害に対応できる医療機関（又は支援機関）を教えてください」、「医療機関以外にカウンセリングを受けられる機関はないか」などがありました。

▽「今後の就労」に関する相談例としては、「学校を卒業してから就労経験が全くなく、何から手をつければよいか分からない」、「以前の職場で仕事が覚えられなかったり、コミュニケーションが上手くいかずに退職してしまった。再就職に向けて相談したい」などがありました。

▽これらの相談内容に応じて、いっしょスタッフからは発達障害の特性理解のための助言や支援機関・制度に関する情報を提供したほか、保健・福祉・教育・労働等の各分野の関係機関と連携を図りながら支援を行いました。

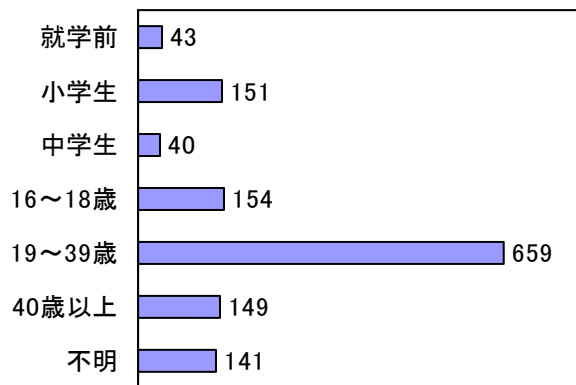


図 1 年齢区分別延べ相談件数

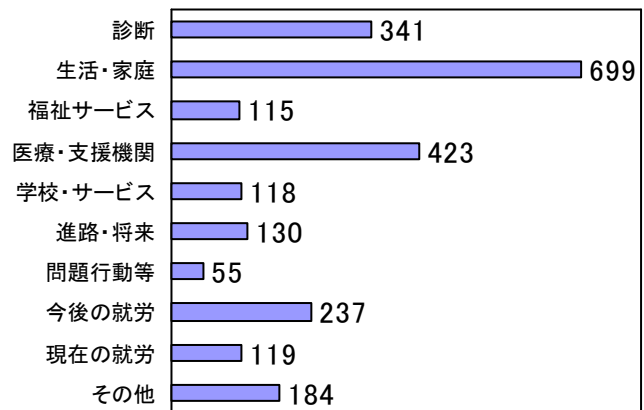


図 2 相談内容別延べ相談件数

令和元年度も引き続き、関係機関と連携し、支援に取り組んで参りますので今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

栃木県発達障害者支援センター いっしょ

〒320-8503 栃木県宇都宮市駒生町 3337-1（栃木県障害者総合相談所内）

TEL 028-623-6111 FAX 028-623-7255

E-mail : hattatsu-kouji@pref.tochigi.lg.jp（H30.4 月からメールアドレスが変わりました）

ホームページ

栃木県発達障害者支援センター

検索